

薬原性錐体外路症状評価尺度  
Drug-Induced Extra-Pyramidal Symptoms Scale

患者ID: \_\_\_\_\_

患者氏名: \_\_\_\_\_

評価者名: \_\_\_\_\_

症状発現時期:	20	年	初回 月 日	第2回目 月 日	第3回目 月 日	第4回目 月 日	第5回目 月 日	第6回目 月 日	第7回目 月 日	
抗精神病薬（種類および一日量）										
抗パーキンソン薬（種類および一日量）										
その他の関連薬剤（種類および一日量）										
<b>1.歩行</b> 小刻みな遅い歩き方。速度の低下歩幅上肢の振れの減少、前屈姿勢や前方突進現象の程度を評価する。	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
<b>2.動作緩慢</b> 動作がのろく乏しいこと。動作の開始または終了の遅延又は、困難。顔面の表情変化の乏しさ（仮面様顔貌）や単調で緩徐な話し方の程度も評価する。	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
<b>3.流延</b> 唾液分泌過多	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
<b>4.筋強剛</b> 上肢の屈伸に対する抵抗。歯車現象、ろう屈現象、鉛管様強剛や手首の曲がり具合の程度も評価する。	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
<b>5.振戦</b> 口部、手指、四肢、軀幹に認められる反復的、規則的（4～8Hz）でリズムカルな運動。	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
<b>6.アカシジア</b> 静座不能に対する自覚；下肢のムズムズ感、ソワソワ感、絶えず動いていたいという衝動などの内的不穏症状とそれに関連した苦痛、運動亢進症状（身体の揺り動かし、下肢の振り回し、足踏み、足の組み換え、ウロウロ歩きなど）についても評価する。	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
<b>7.ジストニア</b> 筋緊張の異常な亢進によって引き起こされる症状、舌、頸部、四肢、軀幹などにみられる筋肉の捻転やつっぱり持続的な異常ポジション、舌の突出捻転、斜頸、後頸、牙関緊急、眼球上転、ピサ症候群などを評価する。	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
<b>8.ジスキネジア</b> 運動の異常に亢進した状態、顔面、口部、舌、顎、四肢、軀幹にみられる他覚的に無目的で不規則な不随意運動、舞蹈病様運動、アテトーゼ様運動は含むが、振戦は評価しない。	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
<b>9.概括重症度</b> 錐体外路症状全体の重症度。	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4

0:なし、正常 1:ごく軽度、不確実 2:軽度 3:中等度 4:重度

詳細については別紙参照 鈴鹿厚生病院薬剤部